

令和 8 年度病害虫発生予察注意報第 6 号

令和 8 年 9 月 4 日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

8 月下旬現在、予察灯および集合フェロモントラップに誘殺される果樹カメムシ類が平年に比べて多くなっており、果樹全般において果実被害の発生が懸念される。今後、果樹園への飛来が認められた場合、直ちに防除を行う必要がある。

病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 対象作物 果樹全般
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生時期 平 年 並
- 4 発 生 量 多 い
- 5 注意報発令の根拠

- (1) 8 月下旬現在、カメムシ類の予察灯における調査において、誘殺数は平年に比べて多い地点が認められる（表 1－1～3）。
- (2) 8 月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場，無袋，慣行防除体系）において、ナシへの果実被害が確認されている。
- (3) 8 月下旬現在、集合フェロモントラップ（水盤式）調査におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は 19 頭（平年：9.4 頭）と発生量は平年に比べてやや多い（図 2）。
- (4) 向こう 1 か月の気象予報（9 月 3 日広島地方気象台発表）から、今後、カメムシ類の活動に好適な条件になると見込まれ、果樹園への飛来量増加が予想される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り、早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う（ネオニコチノイド系又は合成ピレスロイド系殺虫剤のいずれかを選択）。特に、過去の多発生年に早期に被害を受けた地域では注意する。
- (2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件では薬害が発生しやすいため夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、薬剤散布は広域的に一斉に実施し、地域全体の密度を下げることを望ましい。
- (3) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (4) 各樹種の防除薬剤は表 2 を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守る。
- (5) 防除を行う際は、農作業安全に十分に注意する。

表１－１ 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町**		湯梨浜町***		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
５月計	359	134.0	422	301.3	658	262.6
６月計	523	550.5	600	1369.5	244	334.4
７月計	382	2599.6	1704	2944.6	374	908.1
８・上	234	221.1	1187	1764.3	436	247.7
・中	726	364.1	1864	778.0	466	568.7
・下	<u>1520</u>	495.2	<u>1815</u>	862.3	81	1401.0
９・上		363.0		835.3		282.2
・中		290.2		602.8		247.7
・下		109.3		184.3		108.1

* 平年：八頭町 R3～R7、湯梨浜町 R5～R7、北栄町 H28～R7

** 八頭町はR3年度から調査地点を変更。

*** 湯梨浜町はR5年度から調査地点を変更。

表１－２ 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町**		湯梨浜町***		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
５月計	2	3.0	51	4.7	10	3.3
６月計	16	109.7	74	137.4	8	34.2
７月計	369	1539.5	778	1871.2	138	428.5
８・上	204	314.9	477	2265.9	123	141.6
・中	489	579.7	383	1086.7	68	124.6
・下	237	508.9	271	796.9	13	112.8
９・上		119.3		322.4		28.4
・中		60.0		339.1		14.9
・下		19.9		112.8		2.5

* 平年：八頭町 R3～R7、湯梨浜町 R5～R7、北栄町 H28～R7

** 八頭町はR3年度から調査地点を変更。

*** 湯梨浜町はR5年度から調査地点を変更。

表１－３ 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町**		湯梨浜町***		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
５月計	8	14.5	93	39.7	91	81.1
６月計	235	590.6	313	2162.2	276	1163.5
７月計	188	1290.6	499	3909.2	206	937.5
８・上	394	67.8	605	481.7	116	156.0
・中	504	62.2	1142	108.3	138	120.3
・下	<u>218</u>	37.0	<u>316</u>	132.1	27	70.0
９・上		36.4		117.3		59.4
・中		32.0		87.0		46.2
・下		40.3		28.2		31.0

* 平年：八頭町 R3～R7、湯梨浜町 R5～R7、北栄町 H28～R7

** 八頭町はR3年度から調査地点を変更。

*** 湯梨浜町はR5年度から調査地点を変更。

注）下線部分は、８月下旬時点の誘殺数（頭）が平年値よりも大きいことを示す。

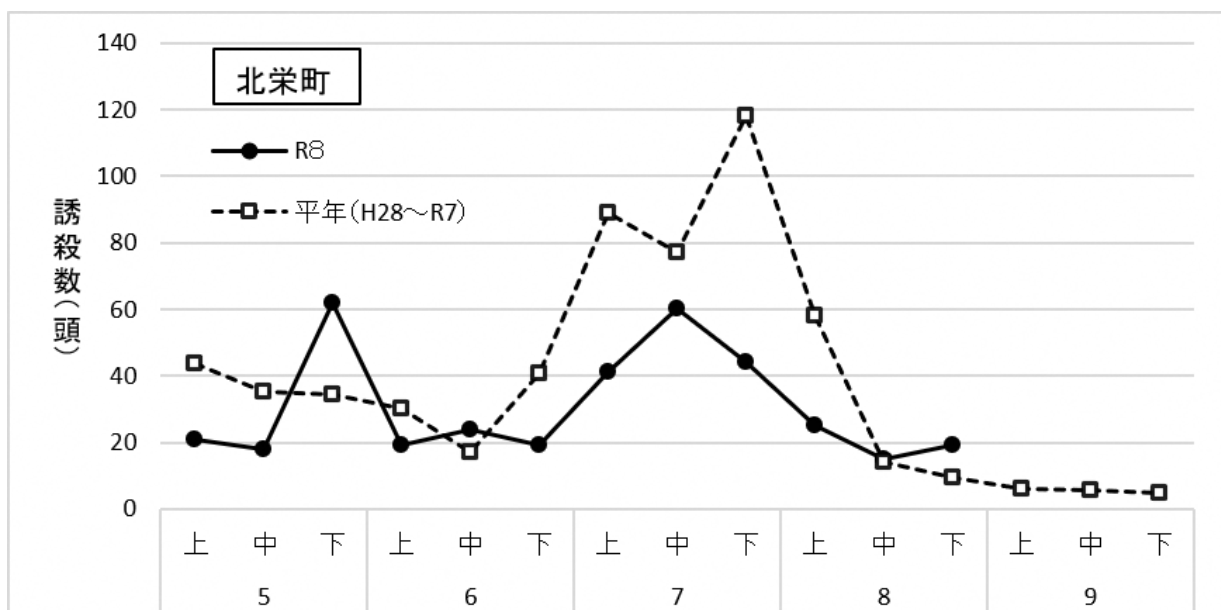


図1 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移



チャバネアオカメムシ成虫



クサギカメムシ成虫



ツヤアオカメムシ成虫

写真1 主要な果樹カメムシ類



ナシ「王秋」の果実被害



カキ「富有」の果実被害

写真2 果樹カメムシ類による果実被害（収穫期）

表2 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準*

作物名	農薬の名称	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	IRAC コード**	薬剤の系統
なし	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	4A	ネオニコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内		
	ダントツ水溶剤	2,000 倍～ 4,000 倍	収穫前日まで	3 回以内		
	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1,000 倍～ 2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	3A	合成ピレスロイド系
	シペルメトリン水和剤 (イカズチWDG)	1,500 倍	収穫前日まで			
	テルスターフロアブル	3,000 倍～ 6,000 倍	収穫前日まで	2 回以内		
かき	ジノテフラン水溶剤*** (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	4A	ネオニコチノイド系
	クロラントラニリプロール ジノテフラン水和剤*** (キックオフ顆粒水和剤)	2,000 倍	収穫前日まで		ジノテフラン : 4A	
					クロラントラ ニリプロール : 28	ジアミド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫 3 日前まで	3 回以内	4A	ネオニコチノイド系
	アグロスリン水和剤	1,000 倍～ 2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	3A	合成ピレスロイド系
ぶどう	ジノテフラン水溶剤**** (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	4A	ネオニコチノイド系
りんご	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内	4A	ネオニコチノイド系
うめ	アクタラ顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内	4A	ネオニコチノイド系

* 農薬の登録内容は令和 8 年 9 月 4 日現在

** IRAC コードは殺虫剤の作用機構の分類を示す。

*** ジノテフランを含む農薬の総使用回数は、4 回以内（塗布は 1 回以内、散布は 3 回以内）

**** ジノテフランを含む農薬の総使用回数は、3 回以内（塗布は 1 回以内）

(お問合せ先) 鳥取県病害虫防除所（鳥取県園芸試験場内、TEL：0858-37-4211）



この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo/> です。

ホームページ 2 次元コード